

令和7年度

鹿児島県森林技術総合センターの概要



「脱炭素社会の実現と豊かな自然との共生」や
「農林水産業の「稼ぐ力」の向上」等に向けて

令和7年4月

鹿児島県環境林務部
森林技術総合センター

県HPで試験研究や林業普及活動、
森林環境教育などの取組を紹介し
ています！

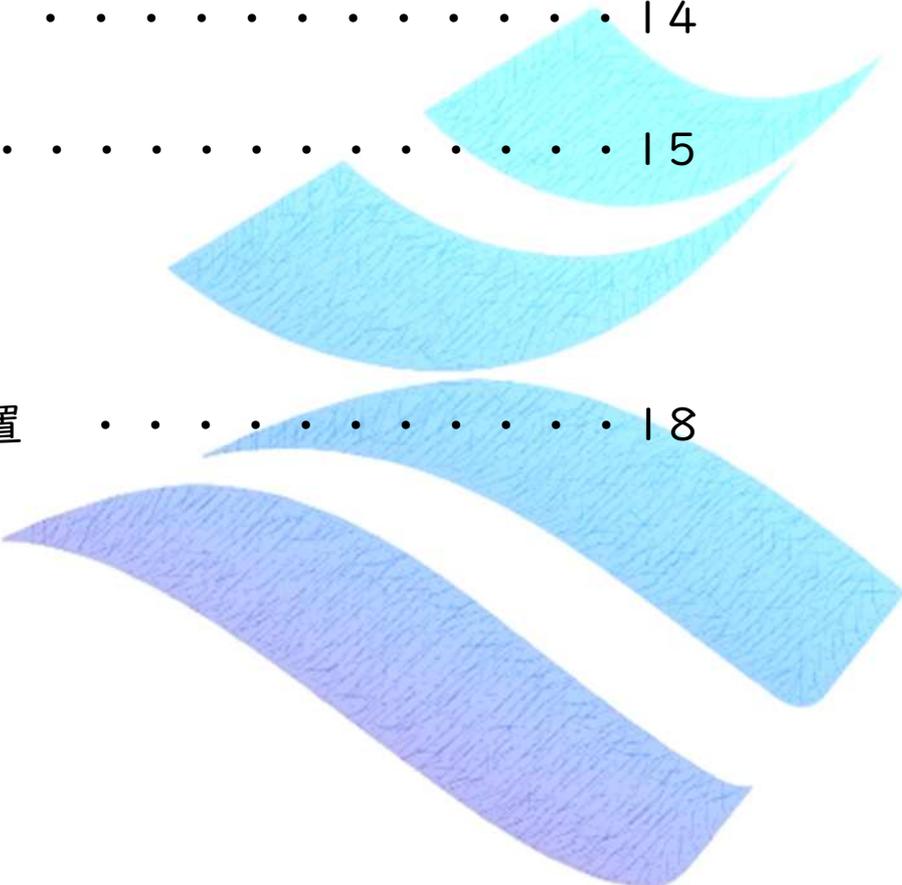


Xにより森林環境教育や
センターへの相談事例を
情報発信しています！



目次

1	組織と事業推進体系	1
1-1	役割	
1-2	組織	
1-3	事業推進体系	
2	予算	3
3	試験研究の概要	4
3-1	令和7年度 of 取組	
3-2	受託調査	
3-3	最近の主な研究成果	
4	普及指導・育成の概要	10
5	沿革（抜粋）	14
6	施設	15
6-1	土地等	
6-2	施設配置図	
6-3	試験林	
7	センターの位置	18



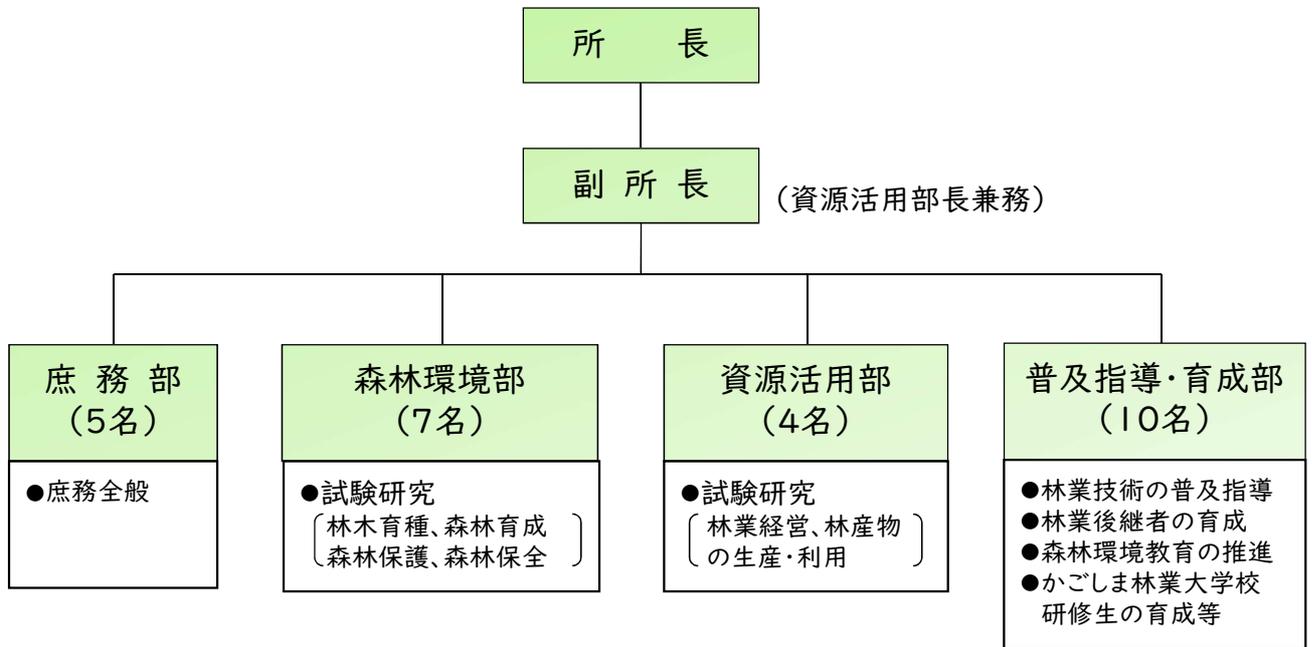
Ⅰ 組織と事業推進体系

Ⅰ-Ⅰ 役割

森林技術総合センターは、森林・林業分野の技術の拠点として、**新たな課題や森林所有者等のニーズに対応した技術開発**を行い、その**成果の普及定着**を図るとともに、**林業に関する技術・知識の普及や森林施業に関する指導**等を行っています。

また、地域林業の活動支援を通じた**地域リーダーの育成**や森林経営管理制度の円滑な推進を図るための**市町村職員等を対象とした技術研修**、森林を守り育てる意識の醸成を図るための**森林環境教育**及び林業の基礎から最先端に至る幅広い知識と技術を兼ね備えた安全意識の高い即戦力となる人材の育成を図るための「**かごしま林業大学校**」**研修生の育成・就業支援**等を行っています。

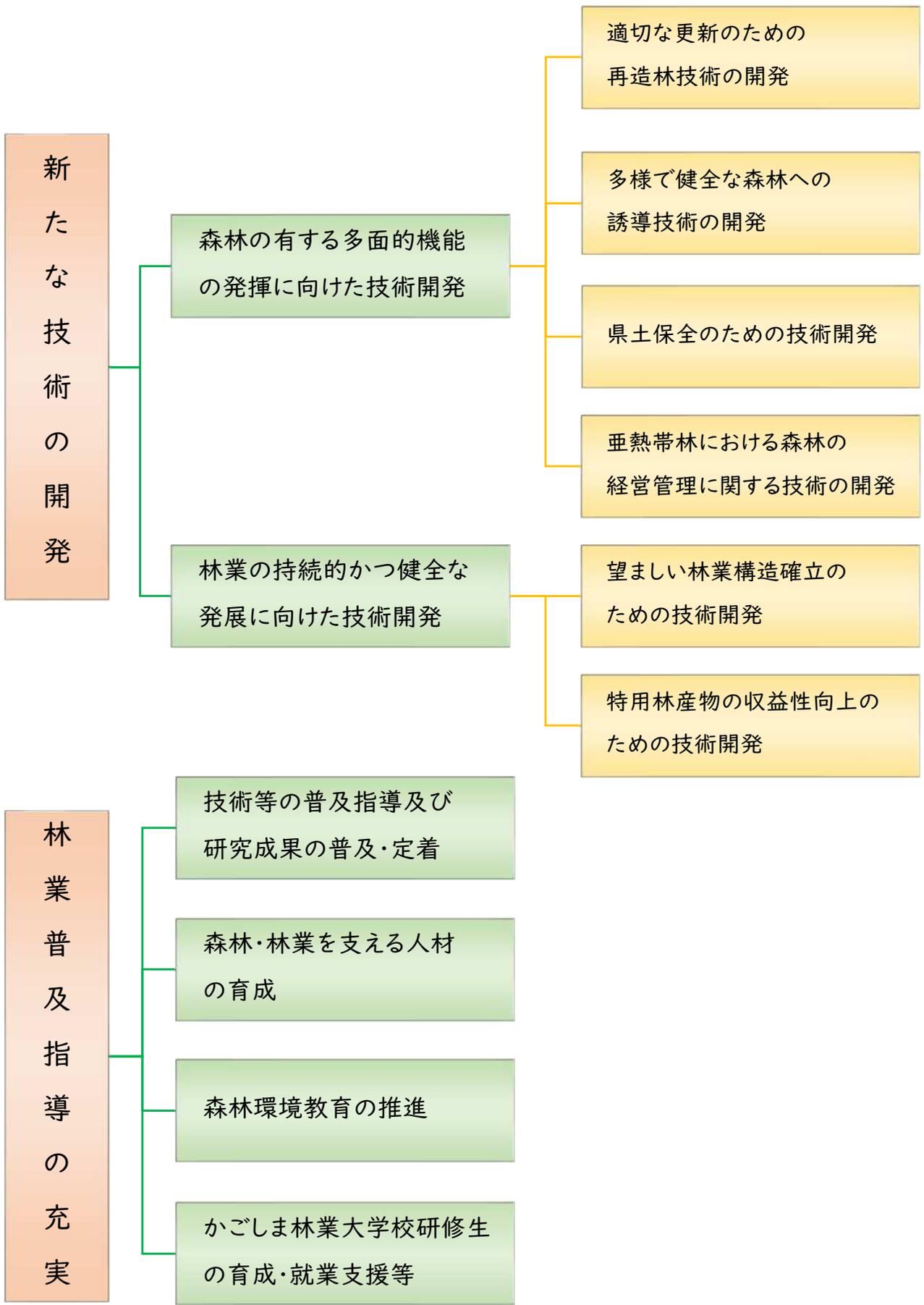
Ⅰ-Ⅱ 組織



(再掲)

行政職		研究職	現業職	計
事務職	技術職			
5名	10名 (うち林業専門普及 指導員5名)	10名	2名	27名

1-3 事業推進体系



2 予 算

(単位：千円)

事業名	6年度 当初	7年度 当初	財 源		
			国庫	県費	その他
(1) 県単試験事業	2,026	2,141		2,141	
(2) 未来につなぐ森林づくり推進事業 [みんなの森づくり県民税関係事業]	1,868	—			
(3) 育ててつなぐ再造林推進事業 [みんなの森づくり県民税関係事業] 新	—	1,868		1,868	
(4) 多様な樹種による再造林支援事業 [森林環境譲与税関係事業]	1,480	1,480			1,480
(5) 森林管理適正化支援事業 [森林環境譲与税関係事業]	1,810	1,810			1,810
(6) 林業普及情報活動システム化事業	651	653	326	327	
(7) 公募型試験研究事業	3,000	1,200			1,200
(8) 森林病虫獣害防除薬剤委託事業	870	674			674
小 計 (試験研究関係)	11,705	9,826	326	4,336	5,164
(9) 普及運営事業	4,319	4,357	1,969	2,388	
(10) 普及職員研修事業	492	534	149	385	
(11) 巡回指導施設整備事業	2,750	2,745	1,006	1,739	
(12) 普及活動高度化特別対策事業	205	228	99	129	
(13) 地域リーダー活動推進事業 [森林環境譲与税関係事業]	826	826			826
(14) 市町村森林管理技術者等養成事業 [森林環境譲与税関係事業]	1,318	—			
(15) 市町村森林管理技術者等実践研修事業 [森林環境譲与税関係事業] 新	—	1,398			1,398
(16) 森林環境教育推進事業 [みんなの森づくり県民税関係事業]	5,852	5,810		853	4,957
(17) かごしま林業大学校運営事業 [森林環境譲与税関係事業] 新	—	93,317	19,156	20,570	53,591
小 計 (普及指導関係)	15,762	109,215	22,379	26,064	60,772
(18) 運営管理事業	11,256	17,747		16,032	1,715
(19) 維持補修事業	270	53,420		14,420	39,000
小 計 (センター運営関係)	11,526	71,167		30,452	40,715
計	38,993	190,208	22,705	60,852	106,651

※財源の「県費」は一財、県民税、「その他」は受託事業収入、譲与税繰入、手数料の合計額を記載。

3 試験研究の概要

3-1 令和7年度の取組

森林の有する多面的機能の発揮に向けた技術開発
林業の持続的かつ健全な発展に向けた技術開発



ススキや先駆樹種が繁茂する造林地

1

現地条件に応じた下刈り作業の省力化に関する研究

- 期間:令和3~7年度
(みんなの森づくり県民税関係事業)
- 内容:雑草木の繁茂状況に応じた最適な下刈り方法を確立するとともに、下刈り方法を容易に選択できる実施フローを作成する。
 - (1) 雑草木再生パターン調査
 - (2) 新たな時期の下刈りと効果調査



コンテナ苗環境測定

2

スギコンテナ苗の育苗条件に関する研究

- 期間:令和7~9年度
(みんなの森づくり県民税関係事業)
- 内容:コンテナ苗の得苗率を向上させるため、多様な資材ごとに環境条件に対応した生産方法の改良とそれに基づいた生産マニュアルの改訂を図る。
 - (1) コンテナ苗生産条件分析
 - (2) コンテナ苗育苗試験



エリートツリー植栽試験地(錦江町)

3

エリートツリー等の初期保育手法の検討
(多様な樹種による再造林支援事業)

- 期間:令和6~10年度(森林環境譲与税関係事業)
- 内容:エリートツリー等の育林技術指針への追加や広葉樹コンテナ苗を活用した現地適応化試験を行い、市町村の再造林推進を支援する。
 - (1) エリートツリーの初期保育手法の検討
 - (2) 早生樹(コウヨウザン)の初期保育手法の検討
 - (3) 広葉樹コンテナ苗の初期保育手法の検討



ヒノキ過密壮齡林

4

ヒノキ過密壮齡林における施業手法の検討 大島地区仮想収穫表の見直し (森林管理適正化支援事業)

- 期間: 令和6~10年度(森林環境譲与税関係事業)
- 内容: ヒノキ過密壮齡林における施業方針判定フローの作成と大島地区仮想収穫表の見直しを行う。
 - (1) ヒノキ過密壮齡林の現況調査
 - (2) 大島地区の広葉樹を対象にした資源量調査



松くい虫被害による松の枯損

5

森林病虫害等の防除に関する研究

- 期間: 平成9年度~連年(県単事業)
- 内容: 県内の森林や緑化樹等の病虫害獣害の診断等を実施するとともに、その動向等を調査する。
 - (1) 病虫害診断
 - (2) 虫害調査
 - (3) 病害調査



薬剤試験の様子

6

ソテツシロカイガラムシに関する研究

- 期間: 令和6~10年度
(農林水産省委託プロジェクト研究)
- 内容: 外来侵入昆虫であるソテツシロカイガラムシによるソテツ被害の解明とその防除方法を確立する。
 - (1) 県内の被害状況の把握
 - (2) 効率的な薬剤防除手法の確立



マツノマダラカミキリの薬効試験

7

森林病虫害獣害防除薬剤委託事業

- 期間: 平成16年度~連年(受託事業)
- 内容: 本県において発生する森林病虫害獣害に必要なかつ効果的と思われる薬剤の効果等について調査し、防除薬剤の開発に協力する。



モクマオウ無植栽試験地(知名町)

8

奄美の既設試験地調査

- 期間:昭和55年度~連年(県単事業)
- 内容:奄美群島において、これまで設置した試験地(海岸防災林)を追跡調査し、奄美群島における技術開発の基礎資料を得る。



スギ樹皮培地による育苗試験

9

スギ樹皮の林業資材への利用技術の開発

- 期間:令和3~7年度(県単事業)
- 内容:スギ樹皮を有効利用するために、育苗用培地や雑草抑制等の資材として利用するための技術を開発する。
 - (1) 育苗資材への利用試験
 - (2) 森林施業や特用林産物栽培への利用試験



放置竹林整備後の試験地

10

脱炭素社会の実現に向けた 放置竹林の整備に関する研究

- 期間:令和5~7年度(県単事業)
- 内容:放置竹林の実態と整備後の竹林の成長量を調査し、整備によるCO2吸収量を明らかにする。
 - (1) 放置竹林のサンプル調査
 - (2) 放置竹林の整備後の成長量調査
 - (3) CO2吸収量の算定



椿のさし木試験

11

安定した椿油生産のための 椿の栽培技術に関する研究

- 期間:令和7~9年度(国庫事業)
- 内容:増殖技術試験や結実促進試験等により椿油収穫を目的とした栽培技術を確認する。椿実収量の安定した優良品種を選抜する。
 - (1) さし木・台木への接ぎ木試験
 - (2) 結実促進試験
 - (3) 優良品種の選抜

12

既設試験地調査

- 期間:平成9年度～連年(県単事業)
- 内容:これまで設置した試験地の追跡調査を実施し、技術開発のための基礎資料を得る。

スギ植栽試験地



(始良市)
精英樹・エリートツリー等

広葉樹植栽試験地



(始良市、霧島市)
チャンチンモドキ

第二世代抵抗性マツ植栽試験地



(指宿市)
第二世代抵抗性マツ品種

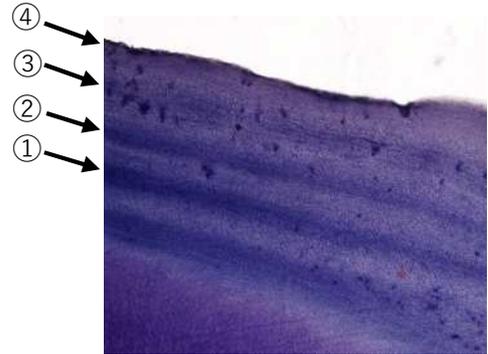
3-2 受託調査

本庁関係課からの依頼により、次の調査を実施しています。

1

指定管理鳥獣捕獲等事業

- 内容:シカ捕獲個体の年齢構成等を調査



シカ切歯(門歯)切片の年輪(4歳)

2

マツノマダラカミキリ発生消長調査

- 内容:松くい虫防除時期の最適化を図るため、マツノマダラカミキリの羽化脱出消長を調査



マツノマダラカミキリ

3

薬剤防除自然環境等影響調査

- 内容:森林病虫害等防除法に基づく薬剤散布による自然環境等への影響を調査



斃死(へいし)昆虫の調査

3-3 最近の主な研究成果

1 下刈りの時期分散及び回数削減について（平成28～令和2年度）

主伐面積の増加に伴い、下刈りを必要とする造林地の面積も累積的に増加していますが、林業労働力は長期的にみると減少傾向にあります。今後、下刈りを確実に going いくためには、下刈りの時期分散や回数の削減が必要であり、春季（5月）下刈りや下刈り回数削減の可能性について試験しました。

〔結果〕

下刈りの時期分散については、春季に下刈りを行ったところ、夏季の下刈りと同等以上の効果が得られ、春季下刈りは適用が可能であることを確認しました。

また、下刈り回数の削減については、植栽木と競合する雑草木が最大高さ2m程度の草本植物（ススキなど）であれば、下刈り回数を5回から3回に削減することが可能であることを確認しました。



刈り払い機

2 サカキの害虫「サカキブチヒメヨコバイ」について（平成29～令和3年度）



サカキブチヒメ
ヨコバイ成虫

サカキ生産地でサカキの葉に白点被害が発生しており、原因はサカキブチヒメヨコバイの吸汁によるものでした。これまで本県におけるヨコバイの生態や県内の被害状況については明らかになっていないため調査しました。

〔結果〕

ヨコバイは年間を通じて捕獲され、発生ピークは6月と11月の2山型でした。

白点被害は新葉が硬化する8月頃から確認され、9～11月及び4～6月で被害が進行し、12～3月は被害が停滞することが明らかになりました。

県内における白点被害の発生状況は、全域でなく地域的にまとまって発生していました。

3 帯状伐採による効率的な竹材生産技術について（令和2～令和4年度）

近年、竹材を持続可能な自然素材として、CNFやバイオ炭などの新たな利活用の動きがある一方で、竹林所有者の高齢化等による竹林の管理不足や侵入竹の面積拡大が問題になっています。そこで、効率的な竹材生産のために放置竹林において伐採幅を変えた帯状伐採の労働生産性と伐竹後の竹再生について調査しました。

〔結果〕

抜き伐りよりも労働生産性の高く、伐竹後の新竹が小径化しない帯状伐採の伐採幅は7～10mということが確認されました。また、伐採区の両脇3mを枯竹・枝条の棚積みスペースとすることで作業時間の短縮が図られることがわかりました。



帯状伐採状況

4

不採算人工林を針広混交林に誘導する施業方法について（令和元～令和5年度）



シダ類が繁茂するスギ人工林内で生育するムクロジ

森林経営管理制度のもと、市町村が経営管理権を設定する不採算人工林については、公益的機能を重視した森林（針広混交林等）へ誘導する必要があります。そこで、針広混交林へ確実に効果的に誘導するために、不採算人工林の下層植生の状況に応じた目標林型と施業方法の確立に向けた調査を行いました。

【結果】

スギ・ヒノキ人工林を3つの植生型（シダ型、クスノキ科型、シイ・カシ型）に類型化し、植生型に応じた目標林型と施業方法を整理しました。

また、斜面下部や谷底面に適した植栽樹種としてムクロジを選定し、播種前に研磨処理を加えることで、発芽率が9割以上に向上することがわかりました。

5

コンテナ容器等による実生育苗に関する研究（令和3～令和5年度）

スギのコンテナ苗生産で得られた知見を広葉樹に応用し、広葉樹の実生育苗をコンテナ容器で育苗し、主根の健全な発達を伴う小型で容易に植栽できる形状の苗木の生産方法について研究を行いました。

【結果】

アラカシは、元肥として溶出期間の異なる緩効性肥料で比較した場合、1成長期後の成長量は180日タイプが700日タイプより良い結果が得られました。

また、アラカシの大粒種子を用いて溶出期間180日の緩効性肥料を元肥7.0g/L、追肥1.2g/孔施用すれば、2成長期後にクヌギの山行苗木規格である苗高50cm、根元径7mmに達することがわかりました。



広葉樹コンテナ苗の生産

6

サカキの平地栽培にかかる研究について（令和4～令和6年度）



サカキ枝

通常、スギなどの林床で栽培されるサカキを、畑等の平地において栽培するため、遮光資材を用いて林内の環境を再現し、葉が緑で平らな商品価値の高いサカキを生産する方法を調査しました。

【結果】

露地栽培では葉が赤くなってしまいましたが、70～85%遮光することにより、商品価値の高いサカキを生産することができ、林床栽培では6～7年かかるといわれるサカキの本格的な収穫が遮光栽培では4年で収穫可能となることを確認しました。

4 普及指導・育成の概要

技術等の普及指導及び研究成果の普及・定着

1

普及運営事業

- (1) 巡回指導
普及指導員が森林所有者の林業経営等を支援するため、計画的に巡回指導を行う。
- (2) 地区運営
普及指導員が普及指導活動を円滑に行うため、必要な資機材を整備する。
- (3) 普及情報活動の促進
最新の森林・林業・木材産業に関する情報を林業関係者や関係機関に提供する。



普及指導員の巡回指導



ドローンを活用した測量図作成研修

2

普及職員研修事業

- (1) 林業専門普及指導員研修
専門普及指導員の資質と指導能力の向上を図るため、国が実施する中央研修等へ派遣する。
- (2) 林業普及指導員研修
普及指導員の資質と指導能力の向上を図るため、各種研修や林業普及活動推進発表会を開催する。



林業普及指導員新任者研修



林業普及活動推進発表会

3

普及活動高度化特別対策事業

林業普及指導員の資質向上を図るため、国が実施する中央研修への派遣や特別研修を行う。



林業普及指導員専門研修

4

巡回指導施設整備事業

普及指導員が効率的に普及指導活動を行うため、巡回指導車（公用車）を整備する。

森林・林業を支える人材の育成

5

地域リーダー活動推進事業

若手林業従事者等を対象とした養成講座の開催や指導林家等の地域リーダーの認定を行うとともに、技術研修・交流会の開催等により地域リーダー等の活動を支援する。



地域リーダー養成講座



指導林家等認定証交付式

6

市町村森林管理技術者等養成事業

森林経営管理法に基づく森林経営管理制度の円滑な推進を図るため、市町村職員等を対象に森林管理に必要な知識や技術に関する研修を実施するとともに、国の研修等を通じて市町村への技術的支援を的確に行える若手県職員を育成する。



室内でのグループ演習



森林調査研修

森林環境教育の推進

7

森林環境教育推進事業

小学生、中学生、高校生を対象とした森林環境教育やその指導者に対する研修を実施する。



小学生への森林環境教育



中学生への森林環境教育



高校生への森林環境教育

8 かごしま林業大学校運営事業

林業の基礎から最先端に至る幅広い知識と技術を兼ね備えた安全意識の高い即戦力となる人材を育成するため、かごしま林業大学校における長期研修の実施や運営に必要な業務を行う。

(1) 林業大学校研修事業

- ・研修の実施
- ・林業大学校のPRや研修生の確保に向けた広報・募集活動
- ・運営協議会等の開催や研修サポートの実施

(2) 緑の青年就業準備給付金事業



研修を実施する施設
(森の研修館かごしま)



研修を実施する施設
(鹿児島大学農学部附属高隈演習林)



高性能林業機械操作技術研修



森林経営(施業プラン)研修

5 沿革(抜粋)

- 昭和 4年 鹿児島県林業研究場として設立
- 昭和 5年 研究生の養成制度発足
- 昭和 6年 鹿児島県林業試験場と改称
- 昭和15年 森林組合の技術員養成のため、短期養成の練習生制度を発足
- 昭和33年 大島林業指導所を大島郡龍郷町に設立
- 昭和36年 林業試験場の拡充計画により、現在位置に新築竣工
庶務課・経営課・育種課の3課体制
- 昭和39年 庶務課・保護課・造林課・育種課の4課体制
- 昭和42年 育種課を廃止して経営課を新設。育種事業は本庁へ業務移管
- 昭和44年 大島林業指導所を林業試験場に統合して林業試験場大島分場と改称
- 昭和51年 庶務部・保護部・育林部・経営部の4部体制
- 昭和58年 大島分場を廃止し、龍郷町駐在に改制
- 平成19年 林業振興課の普及指導部門を統合し「森林技術総合センター」と改称
庶務部、森林環境部、資源活用部、普及指導部、龍郷町駐在に改制
- 平成24年 龍郷町駐在を廃止
- 令和 7年 かごしま林業大学校開校に伴い、普及指導部を普及指導・育成部に改制



センター本館と紅梅 令和3年2月

6 施設

6-1 土地等

(1) 本所

(単位 m²)

用途別 所有別		敷地	試験林	備考
		建物敷地・採穂園・樹木園		
県有（行政財産）		53,655	532,032	
分 収 林	始良市 （蒲生町）		96,171	分収割合 5:5
			34,443	分収割合 6:4
	小計		130,614	
	蒲生殖産（株）		24,495	分収割合 6:4
計		53,655	687,141	

(2) 旧龍郷町駐在

(単位 m²)

用途別 所有別		敷地	試験林	備考
		建物敷地・採穂園・樹木園		
県有（行政財産）			107,786	
県有（普通財産）		51,502		
計		51,502	107,786	



敷地内モクレン 令和4年3月

6-2 施設配置図

令和7年4月現在



センター施設

1	本館（普及指導・育成部，庶務部）
2	1号棟（森林環境部）
3	2号棟（資源活用部）
4	作業員休憩室
5	薬剤土壌分析室
6	土壌実験室
7	環境調節実験棟
8	昆虫等実験棟
9	きのこ発生庫
10	しいたけ乾燥室
11	天敵微生物実験棟
12	鳥獣飼育棟
13	網室
14	育苗用温室
15	バイテク馴化施設
16	ミストハウス
17	育苗用浸水槽
18	作業室
19	肥料倉庫
20	堆肥舎
21	実技舎・大型車庫
22	車庫
23	本館便所
24	身体障害者用トイレ
25	作業員便所
26	樹木園便所
27	センターポンプ室
28	受電設備
29	駐車場
30	駐輪場

森の研修館かごしま施設

ア	森の研修館かごしま
イ	宿泊棟
ウ	機械保管施設
エ	実習室
オ	タワーヤード保管庫
カ	研修館駐車場
キ	ブルドーザー車庫
ク	大型特殊車練習場
ケ	待機舎

採穂園・樹木園

A	苗畑
B	広葉樹林園
C	針葉樹林園
D	外国樹木園
E	精英樹クローン園
F	スギ在来種見本園
G	スギ採穂園
H	スギ品種見本園
I	タケ品種見本園
J	モウソウチク園
K	樹木展示林
L	生垣見本林
M	クヌギ園
N	希少木本見本園
O	クロマツ林
P	スギ精英樹クローン見本林
Q	枝物品種園
R	ハイパーマツ採穂園
S	屋外散水施設

6-3 試験林

(1) 沿革

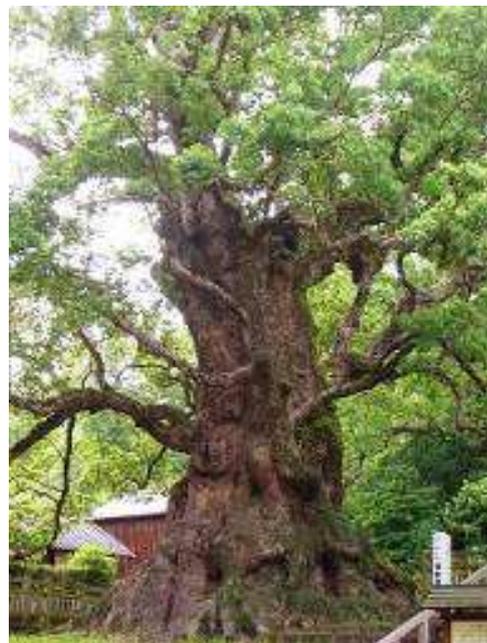
- 昭和 7年 蒲生町（現始良市）と分収契約を締結し、一ノ渡試験林、座頭ヶ房試験林を設置
- 昭和30年 蒲生町久末の国有林46.59haの払い下げを受け、久末試験林を設置
蒲生殖産興業㈱と分収契約を締結し、青敷試験林、小豆脇試験林を設置
- 昭和34年 一ノ渡試験林、座頭ヶ房試験林の一部の分収契約を解除
- 昭和38年 蒲生町と分収契約を締結し、金原試験林、松尾試験林を設置
- 昭和39年 龍郷町からの寄贈により、中勝試験林を設置
- 昭和46年 土地購入により、郡山試験林（採種園）を設置
林政課からの所管換えにより川辺町（現南九州市）に高倉試験林（採穂園）を設置
- 昭和50年 蒲生町から、座頭ヶ房採穂園を借用
- 昭和57年 一ノ渡・座頭ヶ房試験林の分収契約を更新
- 平成 5年 金原・松尾（Ⅱ）試験林の分収契約を更新
- 平成20年 青敷・小豆脇試験林の分収契約を更新
- 平成31年 小豆脇試験林の分収契約を解除

(2) 位置図

試験林計：9か所



7 センターの位置



【日本一の蒲生の大楠】



○自動車(九州自動車道利用の場合)

九州自動車道「始良インター」で降り、県道57号線(麓・重富停車場線)を吉田方面に向かい吉田麓から県道25号線(鹿児島・蒲生線)で約7km。

○JR日豊本線と路線バス

JR日豊本線帖佐駅で下車、「蒲生行き」路線バスを利用し「仲町」下車、徒歩9分。
鹿児島市内からは「蒲生行き」路線バスを利用し「蒲生」下車、徒歩14分。

○飛行機

鹿児島空港より「川内行き」リムジンバスを利用し「蒲生支所前」下車、徒歩15分。



センター敷地俯瞰 令和2年4月

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



鹿児島県森林技術総合センター
〒899-5302 鹿児島県始良市蒲生町上久徳182-1
TEL : 0995-52-0074 FAX : 0995-52-0078
E-mail : rinshifukyu@pref.kagoshima.lg.jp